

Z 生活史作成の注意

菊地暁 folklore.lecture@gmail.com

* レポート課題「おじいさん or おばあさんの生活史」（字数 3000 字以上）

本講義で学んだ民俗学の考え方にに基づき、おじいさん、もしくは、おばあさんより聞き取りをおこない、その生活史を作成する。

（受講生本人の祖父母からの聞き取りが望ましいが、諸事情により困難な場合は祖父母世代と同年代の他人でも可）

・ 締切 2027 年 1 月 13 日（水） 下記QRコードからリンク先のフォームに入力



* 生活史 (life history)

「現在にいたるまでに個人がたどってきた経歴を、一定の項目（例えば、家族歴、学歴、職歴など）を含めた上で、本人や聴取者により作成された自分史のこと。個人は、自らの社会的生活を、客観的な制度と主観的な体験との間の相互作用として経験するが、その相互作用の過程を、個人の側から記述したものをいう」（三田宗介他編 1988『社会学事典』弘文堂）

- ・ 生活史の効用：①もっとも基礎的な生活事実の単位として②データの信頼性を図る目安として③調査ストラテジーの参考に
- ・ 生活史の叙述方法：対象となる個人の来歴そのものと聞き手の関心の個別性に従って千差万別となる。ゆえに、定型はない。

* よくある問題／評価の目安

- ・ 文字資料を主たる資料として作成された生活史 → 聞き取りを実施すること
- ・ 生家や本人の家族構成、居住地、学歴、職業等の基本情報の欠如 → 基本的な事実確認の的確さ
- ・ 文体の冗長さ → 文章表現・構成の簡潔さ cf. 「ござね法」by 梅棹忠夫 1969『知的生産の技術』岩波新書
- ・ 一般的な事実関係の煩瑣な説明 → 話者の体験の重点を置くこと、背景説明は簡潔に
- ・ 「感動した」等の記述者側の感情表現 → 記述者側の感情表現は抑制して、感動に価した事実のほうを丁寧に描くことが肝要

* 聞き取りのヒント

- ・ 地図を活用する：cf. 国土地理院「地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>)」（1940 年代以降の航空写真）
- ・ 写真アルバム等を活用する：記憶は具体的事物によって喚起される。レポートには「関連する」写真を添付したほうがベター。
- ・ AV 機器を活用する：自分の記憶を過信しないため、録音・録画は効果的

* 注意事項：調査は「話者」にとりしばしば「迷惑」である。 cf. 宮本常一・安溪遊地 2008『調査されるという迷惑』みずのわ出版

* 実践例 菊地暁 2000「うどんとモダン—豊中市岡町における都市民俗誌のこころみ—」『人文学報』83（KURENAI にて利用可）

菊地暁編『ライフヒストリーレポート選』京都大学民俗学研究会（2012～+）

菊地暁編 2024『書いてみた生活史：学生とつくる民俗学』実生社

〇〇〇〇

インタビュアーなんて緊張するわ。そんな大それたことはしゃべれないんだけどねえ。まあ孫の頼みだし。面白い話でないと思うけど聞いてて。

生まれたのは昭和二三年、北海道豊富町の電気も通らないような山奥でね。九人兄弟の六番目。兄弟の仲はまあ、良い方だったんでないかい。家はね、酪農の営農やってたの。牛乳とか牛の餌とか。

お父さんは短気だったけど新しいもの好きでねえ。電気も通ってないのに田舎じゃ珍しかった穀粉工場とか製品工場やってたんだわ。冬は製材山で三〇人くらいの人を使つてね。食べ物には困ってなかつたから、働く代わりにおなかすかせた若い人たちにタラフク食べさしたり。そんな感じだから戦争の被害もなかつたらしいし、私が生まれてからも戦争が原因の不自由とかはなかったね。農地改革でかなりの土地もつてかれたつていうのをお父さんは言つてたけど、それでも広かつたし。ああ、でもこんな山奥にも鍋は回収に来たんだつて。ホントに苦労さんにね。あとお父さん、熊撃ちでもあったから、家に鉄砲があつてね。おつかない熊でたら頼まれて撃ちに行つてたわ。

お母さんは面白い人だったけど心臓が弱くてね。一回意識不明になつたんだけど両方生き残つて。危篤になつたときは病院まで馬そり引いて走るの。その時の馬が競馬でね、普通の馬の倍の速さで走るから助かつたんだわ。大したもんでしょ。

なに、次は学生時代かい。どんな学生時代だったかつていってもねえ、とにかく山奥だったから小学校まで四キロあつたんだわ。その学校も一学年十人くらいかい。しかも途中で沼川に学校ができたからみんなそっち行つちやつて

さらに少なくなつて。登下校はそりゃあ大変だったよ。狐はもちろん熊も顔出すからねえ。熊の声が聞こえたら必死で走つて逃げるの。冬は道のないところを木を目標にして歩いて。自転車乗らないのかいつて、そりゃあそうなんだけどさ。舗装されてない砂利道だから自転車の方が大変なんだわ。だから走つたほうがずっと早い。おかげで短距離はタメタメだったけど長距離じゃもう負け知らず。あとはね、そのとき一番楽しかったのはバレーボール。一チームギリギリの人数しかいなかったけど、すごくぶる強くてね。町の学校のチーム、ボコボコにして楽しかつたわ。そりゃあ町の子たちとは鍛え方が違うからね。泣かせて帰らしたわ。

中学校はね、全然覚えてないんだわ。なんだかよくわからないうちに卒業しちゃった。部活も入ってなかつたし。早引きしては農協の仕事行つてね。でも早引きする人が多いと先生が怒つて、次の日にその日の授業内容をテストするつていうんだわ。六〇点以下の人は廊下に立たされるんだけど、それが嫌で嫌で。友だちにノートに全部書かせて、次の日の朝に必死に全部暗記してね、わたし一回も立たされたことないんだわ。まあそんな感じだったからホントに何にも覚えてないの。

それで、卒業した後は実家の手伝い。小さいころから手伝つてはいたんだけどまあ本格的にね。本当は看護師になりたかつたから学校行こうと思つてただけどさ、お母さんが心臓悪くしたから諦めたんだわ。うちは生三〇頭くらいいたかな。昭和三八年に電気通つたあとは、ミルカーつて機械が入つて楽になつただけどね、それまでは全部手で絞つて。牛の餌はね、ビートとかゼントコーン撒いて作るの。免許とつてからは、トラクター買つてもらつてね、木を切つて根っこ抜いて畑にするのもやつてたわ。畑耕すから熊がそんなにでなくなつたね。家の近くにおいしい山葡萄があつて、小さいころに採つてたら向こうの木で熊もおんなじように採つてたなんてこともあつたんだけど。もうその辺りには全く降りてこなくなつたね。

免許取つてからはたまに、農協で働いてた妹の送り迎えしたりしてただけどね、朝送つた帰りに白い狐みたんだ